

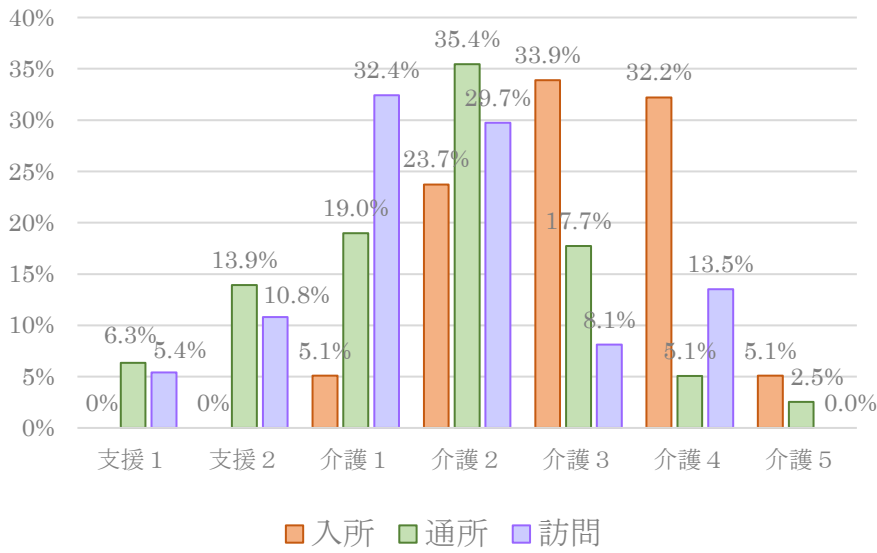
まきょう苑通信



2024年4月
第32号



発行：医療法人社団 松和会 介護老人保健施設
「まきょう苑」(年4回発行、創刊2016年4月1日)
〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目 6-1237
TEL: (0463) 92-8101 ✉ kikyoen@showakai.or.jp



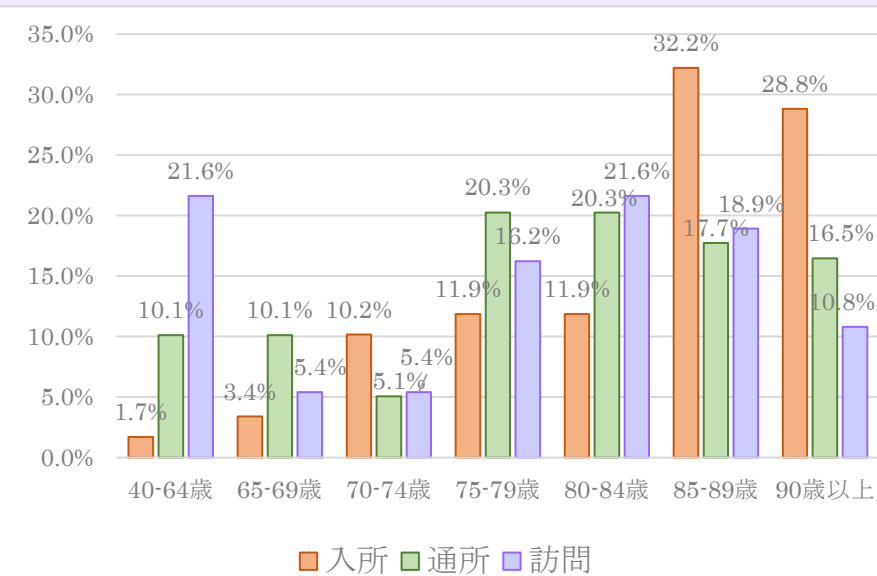
	入所	通所	訪問
支援1		5 (6.3%)	2 (5.4%)
支援2		11 (13.9%)	4 (10.8%)
介護1	3 (5.1%)	15 (19.0%)	12 (32.4%)
介護2	14 (23.7%)	28 (35.4%)	11 (29.7%)
介護3	20 (33.9%)	14 (17.7%)	3 (8.1%)
介護4	19 (32.2%)	4 (5.1%)	5 (13.5%)
介護5	3 (5.1%)	2 (2.5%)	0 (0%)
計	59名	79名	37名

まきょう苑では、入所事業（短期入所含む）、通所事業、訪問事業を通じて、さまざまなご利用者に対してリハビリを提供させていただいています。その中で今回は、2024年1月の各事業における介護度と年齢構成を調べてみました。

介護度と年齢構成で見るとまきょう苑の特徴

介護度

介護度については、入所事業では、該当月のご利用者数は59名。介護度の割合が最も多かったのは介護度3で、ご利用者数が20名（33.9%）、次いで多かったのは介護度4で、19名（32.2%）でした。



	入所	通所	訪問
40-64歳	1 (1.7%)	8 (10.1%)	8 (21.6%)
65-69歳	2 (3.4%)	8 (10.1%)	2 (5.4%)
70-74歳	6 (10.2%)	4 (5.1%)	2 (5.4%)
75-79歳	7 (11.9%)	16 (20.3%)	6 (16.2%)
80-84歳	7 (11.9%)	16 (20.3%)	8 (21.6%)
85-89歳	19 (32.2%)	14 (17.7%)	7 (18.9%)
90歳以上	17 (28.8%)	13 (16.5%)	4 (10.8%)
計	59名	79名	37名

年齢構成

通所事業では、該当月のご利用者数は79名。介護度の割合が最も多かったのは、介護度2で、ご利用者数が28名（35.4%）でした。次いで多かったのは介護度1で、15名（19.0%）でした。

訪問事業では、該当月のご利用者数は37名。介護度の割合が最も多かったのは、介護度1で、ご利用者数が12名（32.4%）、次いで多かったのは介護度2で、11名（29.7%）でした。

まきょう苑の上手な使い方

まきょう苑は、介護度や年齢により利用できるサービスが異なります。その他にも、利用期間やリハビリの提供時間などにもよって特徴がありますので、上記・左記の表を参照しながら、上手にご利用ください。ご利用者の状態によっては、事業間の移行や、サービスの併用も可能です。3つの事業で地域の皆さまの在宅生活を応援します。（リハビリテーション主任会議 新倉 太一）

まきょう苑をご利用できる方

65歳以上の方

介護保険 要介護1~5

入所

短期入所

通所

訪問

以上の方

介護保険 要支援1~2

×

短期入所

通所

訪問

40歳以上
64歳未満

特定疾患で要介護認定を受けた方
脳血管障害、リウマチ、認知症、パーキンソン病、など

入所

短期入所

通所

訪問

入所

- 中期入所（約1~3か月）しっかりリハビリをして在宅へ復帰
- 長期入所（3か月以上）療養施設としてもご利用いただけます

短期入所

- 短期入所（1~30日）短期間で集中的にリハビリができます
- ご家族の休息や冠婚葬祭などの際の一時お預かりも可能です

通所

- 日帰り（9時半~15時半）リハビリ・送迎・入浴・食事ができます
- 半日の短時間利用も可能。振替や臨時利用もご相談下さい

訪問

- 毎週決まった曜日・時間に、療士がご自宅へ訪問します
- 自宅で行う自主トレーニングなどの指導・助言も行えます

入所事業部門長

布川 幸子



在宅復帰強化型施設を目標に各専門職が連携を図り、ご利用者と共にリハビリに励んでまいります。ご自宅で生活をするための目標達成に向けて個別リハビリやリハレク、ご家族に対しては介護教室などを行います。

昨年度は、目標として外出、買い物、調理訓練などを挙げていました。今年度も、引き続き生活リハビリの幅を広げるため、ご自宅での生活を想定して施設外でのリハビリに取り組んでまいります。

施設での長期的な生活を希望される方も、個々の目標に沿ったリハビリはもちろんのこと、生活リハビリも行いながら日常生活動作の維持・向上を目指します。

通所事業部門長

宮崎 亮



リハビリは、自分自身で取り組まないと良い結果には繋がりにくいものですが、一人で取り組んだり、継続したりすることは意外と難しいものです。

そのため、2024年度は専門職による個別リハビリを軸に、健康・栄養・口腔・生活面から総合的に評価・アプローチしていきたいと考えております。

ご利用者が自分自身で叶えたい目標に向けて「今日もききょう苑でリハビリをしたい！」とやる気や楽しみを持ちながら、運動をしたり、頭を使ったりする機会を多く持てるよう、環境やプログラムを充実させてまいります。

訪問事業部門長

川口 真男



訪問事業部門は、療法士がご利用者のご自宅まで何って、リハビリを実施しています。

自宅での生活に不安を感じている方々が安心して過ごせるよう、実生活の場で訓練を行ったり、自宅環境の調整を行ったりしています。

訪問リハビリは週に数回ご自宅で実施していますが、リハビリ効果を更に高めるために、訪問日以外も自主練習を行っていただくようご利用者には勧められています。無理のない範囲で自主練習プログラムを提案し、「自主練習チェック表」を作成して、ご自宅での自主練習の習慣をつけていただけるよう推進して参ります。

居宅介護支援事業部門長

泉 友之



ききょう苑居宅介護支援事業所は、ご自宅で介護が必要になった時、ご本人の状態に合わせて必要な介護保険サービスなどを調整しています。ご相談をいただいております。ご支援開始まで速やかに対応し、ご本人、ご家族の負担が軽減できるように努めております。

介護保険サービスを使うにはどうすればよいかなど、介護で困り際には、お気軽に、ききょう苑にご相談ください。

本年度も、ききょう苑居宅介護支援事業所をよろしくお願い致します。

各事業部門長 2024年度の抱負

入所すしバイキング開催!

2月、入所で毎年恒例の寿司バイキングを開催しました。

新型コロナウイルスの影響により、4年ぶりの開催となりましたが、目の前で本物の職人が握る寿司を見ながらご利用者の方々は、「おいしいね!」と喜んで召し上がっていました。



何握りでしょうか?



ネタは、「まぐろ・うに・サーモン・いくら・はまち・たまご」でしたが、ご利用者の一番人気は・・・「たまご」でした。

(入所事業部門長 布川 幸子)



うまい!

普通救命講習会に参加してきました

2月20日、伊勢原消防署南分署で開催された普通救命講習会に、ききょう苑から2名のスタッフが参加しました。

主な内容は、心停止に伴う心肺蘇生法、AEDの使用法、気道異物除去法、止血法などで、実技を交えて受講してまいりました。

AEDの使用法



心肺蘇生法



心肺蘇生法については、人形を使用して心臓マッサージや人工呼吸を実践し、講師の方からは、その際の注意点や重要事項などを詳しく教えていただきました。

高齢者施設で働くスタッフとして、緊急時には、まずは焦らずに冷静に対応することを心掛け、今回の講習会で学んだことをしっかりと活かせるようにしたいと思います。(入所相談部主任 後藤 佑介)

大山登山マラソン完走しました

3月10日(日)、言語聴覚士の川口が大山登山マラソンに参加してきました。今年で39回目を迎える歴史ある大会であり、伊勢原駅からスタートし、石段や女坂の急登を登り、大山阿夫利神社下社までの9kmのマラソンコースです。

沿道でのたくさんの方々の声援を受け、無事に完走することができ、とてもアットホームな大会でした。(訪問事業部門長 川口 真男)



大会直後の阿夫利神社下社にて

〈編集後記〉

元日に発生した石川県能登半島を震源とする地震から、3ヶ月が経ちました。被災された皆様ならびにご家族の皆様に、心からお見舞い申し上げますと共に、被害にあわれた皆様には、一日でも早く安らぎが訪れることを切に祈っております。

東日本大震災から13年、南海トラフ地震や首都直下型地震についても、いつ起きても不思議ではない状況です。当施設としましては、防災委員会を中心に、災害時にご利用者・職員を守るよう避難訓練や研修を実施しております。改めて、災害時に「自分自身に何が出来るのか、何をしなければならぬのか」を考えていかなければなりません。

日頃から、食料・飲料水、非常用持ち出しバッグの準備、避難場所や避難経路の確認、家具の置き方等の備えは重要となります。

家族構成などによっても、被災時に必要とされる物も異なりますので、皆様も今一度、ご確認いただければと思います。

(通所事業部門 介護部主任 玉木 勇人)

